

## ▶ 第2章

# 米中ネットワーク競争と海底ケーブル

慶応義塾大学 教授（日本経済新聞社 客員論説委員）

土屋 大洋

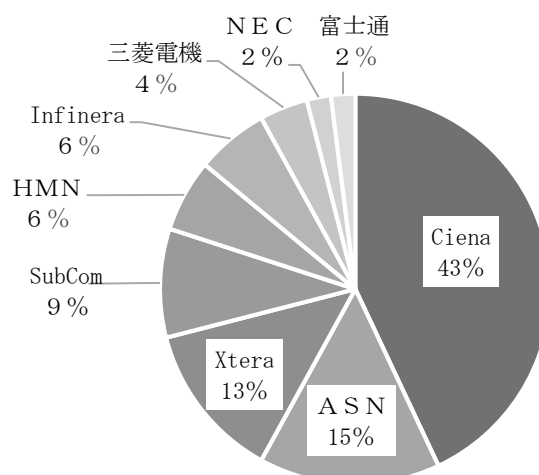
### 【ポイント】

- 100年前から海底ケーブルは地政学的な戦略資産として捉えられてきた。第1次世界大戦および第2次世界大戦ではそれが破壊・切断される事例もあり、戦争の帰趨に影響を与えた。
- 米中間の技術的デカップリングが進む中、米国政府はクリーン・ネットワーク計画を発表し、中国の技術を使った海底ケーブルの阻止がドナルド・トランプ政権下で行われた。ジョー・バイデン政権にそうした政策が継承されるかは不透明である。
- 海底ケーブルは現代の大国間のサイバースペースゲームにおいて、データセンターと認知スペースという2つの地政学的・地経学的ハートランドへのアクセスを担っている。海底ケーブルが安全か、盗み見られていないか、クリーンかという問題は、今後のグローバリゼーションと情報社会の進展を左右する技術的・政策的課題である。



注目データ

海底ケーブルの端局装置におけるメーカーシェア（％）



注：2014—2018年。アップグレード事業者が発表されている海底光通信ケーブルの情報のみに基づく。

資料：STF Analytics (2018) のデータを基に作成。